

ようこそ「やんたん」へ
お茶の郷で過ごす
やさしい時間



お茶のまち宇治田原町。その南東部に位置し、地元では「やんたん」と呼ばれている「湯屋谷」は、日本緑茶が生まれたところです。4つの谷を歩いて巡れば、お茶どころの歴史やのどかな風景、人とのふれあいが待っています。心をゆっくり元気にしてくれる、そんな「やんたん」に出かけませんか。

宇治田原町・湯屋谷への交通アクセス



| 鉄道・バス | |
|-------------|-----------------------------------------------------------|
| 京都 | JR京線(快速)約20分 → 宇治 近鉄京都線(急行)約25分 → 新田辺 |
| 奈良 | JR京線(快速)約30分 → 宇治 近鉄京都線(急行)約30分 → 新田辺 |
| 比叡四美 淀屋橋 | 京阪本線(特急)約15分 → 中書島 → 京阪宇治線約15分 → 宇治 京阪本線(特急)約40分 → 中書島 |

宇治・新田辺駅より京都バス「工業団地行き」「緑苑坂行き」に乗車し「工業団地口」バス停下車(所要時間の目安…約35分)
※バスの本数は限られますので事前の時刻表確認をおすすめします
「工業団地口」バス停からの主なスポットへの所要時間
▶湯屋谷会館…徒歩約23分 ▶永谷宗円生家…徒歩約37分

自動車
名古屋方面よりお越しの方
・名神高速道路「瀬田東」JCT▶京滋ハイパス▶「南郷」ICから約20分
大阪方面よりお越しの方
・名神高速道路「大山崎」JCT▶京滋ハイパス▶「宇治西」ICから約25分
・名神高速道路「大山崎」JCT▶京滋ハイパス▶「笠取」ICから約20分
大阪(枚方)方面よりお越しの方
・第二京阪道路「枚方学研」IC▶国道307号(京田辺方面)へ約35分
・国道1号を北上▶池之宮北交差点で国道307号へ約45分
奈良方面よりお越しの方
・国道24号を北上▶山城大橋東詰交差点を右折(甲賀方面)し、国道307号で約15分または京奈和自動車道「田辺西」ICから国道307号で約20分
発行◎宇治田原町 産業観光課 2017年3月
TEL 0774-88-6638

日本遺産

お茶の京都
日本遺産

やんたん 散策マップ

宇治田原町・湯屋谷エリア

お茶からひも解く日本遺産の町
宇治田原町 湯屋谷ヒストリー

宇治田原町マスコット

茶ッピー



※日本遺産(Japan Heritage)とは

地域の歴史的な魅力や特色を通じ、日本の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産(Japan Heritage)として文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で欠かすことのできない文化財群(有形・無形問わず)を、地域が主体となって整備・活用。そして国内外へと発信し、地域活性化の推進を目指します。宇治田原町の湯屋谷もストーリーに組み込まれた「日本茶800年の歴史散歩」(京都府)は、平成27年4月、日本遺産(Japan Heritage)第1号に認定されました。

ヒストリー1 お茶栽培は大福谷からスタート!

宇治茶の主要産地「宇治田原町」。鎌倉時代、京都洛西・高山寺を再興したことで有名な明恵上人の弟子によってこの地に栽培方法がもたらされたといわれます。最初に茶の木が植えられたのは、雲峰・鷲峰山のふもとに広がる谷あい・大福谷の奥地。周囲の樹木で風や日光がほどよく遮られ、霜が降りず、栽培に適した環境であったことから、大福谷のお茶は評判を呼び、幕府や宮中にも献じられたと伝わります。



山々に囲まれた大福谷エリア

(元文3)年、ついに色・味・香りに優れた緑色のお茶を生み出します。宗円は江戸に上り、茶商・山本嘉兵衛(のちの山本山)を通じて販売。「天下一」という名で、たちまち大流行しました。宗円はこの製法を独占することなく、多くの人に教え全国へと広めたそうです。この製法は「青製煎茶製法」と呼ばれ、今日の日本緑茶の製法の礎となりました。



永谷宗円生家

現在、湯屋谷の奥地にある宗円の出生地では、生家が復元され、茶葉の製造に使った焙炉跡を見ることができます。毎年5月には「新茶まつり」が開催され、生家周囲の茶畑で茶摘みや製茶体験などができます。隣の茶宗明神社では、宗円の功績をたたえ、茶宗明神として宗円を祀っています。



生家の内観



茶宗明神社

永谷宗円生家 ながたにそうえんせいか
● 福真野宇治田原町湯屋谷空広 ● 0774-88-6638(宇治田原町 産業観光課)
● 900~1700(内部公開は土日祝のみ) ● 入場無料

ヒストリー3 日本遺産の町並み!

宗円による煎茶の流行を受け、湯屋谷の茶産業は大きく発展。山あいの細い谷筋に形成された集落にも関わらず、大きな茶問屋や茶農家が軒を連ねる町並みを見れば、当時の隆盛が伝わってきます。現在もその姿を色濃く残していることから、湯屋谷一帯は永谷宗円生家とともに「日本遺産(※)」の構成資産に認定されました。石垣の上に家が建ち、茶畑や木造の茶工場が点在する独特な景観は、レトロなムードたっぷりです。

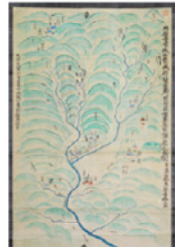


三層建ての茶工場

印象的な石垣が多い

お茶以外の魅力も満載!

日本茶の歴史と深く結びついた湯屋谷の魅力は、お茶だけにとどまりません。太古は海の底だったことから貝の化石が採掘されたり、温泉が湧いた時代があったり(現在は冷泉)、多彩な歴史を歩んでいます。またサンショウウオもすむという町内最大の滝「大滝」や、江戸時代から続く伝統行事、地元のグルメ店にも近年注目が集まっています。喧騒から離れ、おだやかな時間が流れる谷あいの里。歴史の足跡に触れながら、ゆったりとお過ごしください。



湯屋谷温泉の全図(宇治田原町教育委員会 編)
文相8年(1866年)に描かれた地図の写しで、当時の湯屋谷にあった温泉の位置が示されています

ヒストリー2 緑茶の生みの親は湯屋谷にいた!

今、一般的に飲まれている緑茶。ところが、民衆にお茶が広まった江戸時代、庶民が口にできたお茶は、香りも味も粗末な茶色いお茶だったそうです。そんなお茶事情に変化をもたらした人物が、宇治田原町の湯屋谷で茶業を営んでいた永谷宗円です。宗円は15年かけてお茶の製法を研究し、1738



永谷宗円(柳家寺圓)

やんたん 散策マップ

宇治田原町で最初の茶の木が植えられたと伝わる付近に建つ看板。この看板の裏の山中には寺の遺構と思われる石垣も残る。

宇治田原茶発祥の地

足場の悪い道なので 歩行注意

「家康伊賀越えの道」の看板が建つ後、側一帯が宇治田原町で最初に茶づくりがはじまったと伝わるエリア

ここより先は狩猟も行われるような山の中に入るため入山の場合は十分な登山装備を

生活道路なので 歩く時は車に気をつけて!



甲賀・信楽

立ち寄りグルメ

A 高田通泉園

一番人気はほうじ茶ソフト。お月餅は新茶ソフトも登場。9:00~18:00(日祝10:00~)/年末年始休/0774-88-3939

B そば処 実り

手打ち蕎麦が楽しめるお店。陶芸体験も実施。11:30~15:00/金土日のみ営業(陶芸体験は月~水に実施・要予約)/090-2389-9859

C リンデンバウム

地元野菜もたっぷり使った洋食は遠方からのファンも多数。11:00~15:00(L.O.14:30)/17:00~21:00(L.O.20:30)/火休/0774-88-2647

日本緑茶の歴史を感じる 宗門街道コース

石積みの家屋や茶問屋、茶畑などお茶にまつわるスポットを巡るコース。

モデルコース 1

- 約4km
- 工業団地口 ↓ 徒歩23分
- 1 湯屋谷会館 ↓ 徒歩7分
- 2 冷泉 ↓ 徒歩12分
- 3 大福谷 ↓ 徒歩6分
- 4 宇治田原茶発祥の地 ↓ 徒歩19分
- 5 永谷宗円生家・茶宗明神社 ↓ 徒歩14分
- 1 湯屋谷会館

森林浴も楽しむ 大滝街道コース

永谷宗円生家と一緒に鷲峰山を水源とした「大滝」でマイナスイオンも満喫。

モデルコース 2

- 約6km
- 工業団地口 ↓ 徒歩23分
- 1 湯屋谷会館 ↓ 徒歩9分
- 2 長福寺 ↓ 徒歩29分
- 3 大滝 ↓ 徒歩23分
- 4 赤ヶ尾 入口 ↓ 徒歩9分
- 5 永谷宗円生家・茶宗明神社 ↓ 徒歩14分
- 1 湯屋谷会館

湯屋谷の行事

永谷宗円生家新茶まつり
(5月上・中旬の日曜) 永谷宗円生家
生家の茶畑で茶摘み体験、新芽を使った製茶体験、煎茶やおにぎりのふるまいなど充実した体験型イベント。

灯笼張りやんたん灯りまつり
(8月中・下旬の日曜) 長福寺
灯笼に野菜でつくった干支を飾り狂言を書き入れて奉納する「灯笼張り」は江戸末期から続く伝統行事。近年は「やんたん灯りまつり」も併催。

大瀧祭
(9/1)大瀧
江戸時代から行われていたと伝わる雨乞いの儀式。祝詞奏上の後、酒を飲ませた鯉を滝つぼへ放ちます。

新春手揉み茶奉納
(12/31~1/1)永谷宗円生家
お茶の伝統製法・手揉みを一一般公開(例年21時~翌2時頃)。完成後は隣接の茶宗明神社へ奉納。

鷲峰山 (じゆふせん)
修験道の山として有名な鷲峰山。山の水は町へ流れ込み、おいしい茶葉やお米、野菜づくりに役立っている。

3 大滝



大滝に近づくとも木々に囲まれた道が続く

大滝街道 中谷(なかたん)

鷲峰山街道 西谷(にしたん)

道にチェーンがかかり、ここから山方面は車両通行禁止

牛尾の滝 茶臼岩

茶臼づくりに使われたといわれる巨岩で、その奥側に「牛尾の滝」が流れている(滝の近くに行くことは困難)

町の人に会ったらあいさつをしよう! おしゃべりが弾むかも!



家康伊賀越えの道
「本能寺の変」後、徳川家康が堺から三河へ戻る時に通ったといわれる歴史的な道

町の西側へ続く山道でかつてはこの道を行き来した

永谷宗円生家

茶つば窓
この道沿いを流れる川底で貝の化石が見られる

この細道を下って塩谷へ行くことも可能

墓石板
墓石に似た石が採れるというかつての古道(現在は歩行困難)

伊賀越え街道 石詰(いしづめ)

集落を抜けると林道(舗装路)が3まで続く

分岐点を左へ

かつて温泉地だった湯屋谷では今は冷泉が湧き、その源泉のひとつがこちら

分岐点を右へ

湯屋谷会館 (駐車場)

車はここに停めて歩きましょう

茶工場が並ぶ小道

安井園製茶工場

日本遺産の看板

日本遺産・永谷宗円生家の看板が目印

山際の小道

桜が映く

黒豆坂の道標

尚美園製茶場

中畑茶園

工業団地

行先によりバス停が異なるため時刻確認がベター

駐車場にあるきれいなトイレ

工業団地口/バス停 工業団地経由

宇治 城陽・京田辺

お茶色の交通標識

茶畑

茶畑の中には入らないようにお願いします



スマホのアプリで読み取ってご覧いただけます

家康伊賀越えの道マップ・鷲峰山登山マップなど

湯屋谷の紹介動画「やんたんものがたり」

モデルコース 1

モデルコース 2

※所要時間は3.2km/時

大滝に祀られたお不動さん

奥稲荷社

宇治田原郵便局

浅田香園

緑苑坂経由

宇治